農山村地域に知識と情報の対流を促す“農村ストーリー生成システム”の提案

Introducing the ‘Rural Story Making System’ supporting dynamic flow of knowledge and information in rural area

○鬼塚健一郎*　星野　敏**　沼田秀穂***　池田佳代***

○Kenichirou ONITSUKA*　Satoshi HOSHINO**　Hideho NUMATA*** Kayo IKEDA***

Ⅰ　研究の背景

高齢化・過疎化・混住化の進行に伴い、農山村地域では地域コミュニティの弱体化が深刻な問題である。問題の解決には、地域内においては、地域内の情報共有や地域住民が地域の魅力を再発見することにより地域への意識や関心を高めること、地域外との関係においては、多様な主体と共に地域コミュニティの再構築、地域間連携、地域外への情報発信等を図っていくことが必要とされ、そのために、情報通信技術(ICT)は重要な役割を果たすものである。特に近年では、一方向的な情報発信ではなく双方向に交流を行う、SNS をはじめとするソーシャル・メディアが全世界的に利用されるようになっている。このような状況を踏まえて筆者らは、農山村地域において地域の魅力をストーリーとして可視化し、内外で共有することを通じて、地域コミュニティの再構築を図る手法を情報技術・社会技術の両面から開発することを目的としたプロジェクト(SCOPE プロジェクト)に取り組んできた。本報告では、SCOPE プロジェクトにおいて、これらを目的として開発した“農村ストーリー生成システム”について紹介する。

Ⅱ　農村ストーリー生成システムの概要

本報告で提案する地域の情報を自動集約しストーリーを生成するシステム（以降、農村ストーリー生成システム）は、3 つのプラットフォームにより構成される（図 1)。①の集落情報プラットフォームは、農山村住民が日常の情報を投稿する場所であり、Facebook を活用する。投稿された地域の情報は、メディアセンターエンジンで自動収集のうえで集約・ランク付けされ、その情報をもとに②の広域連携プラットフォームで新聞ページが自動作成される。作成された新聞は、誰でもアクセス可能な Web ページとして公開され、さらに RSS や Facebook ページなどで広く伝達される（③グローバルプラットフォーム)。SNS の基本部分としては高度な機能を持ち多くのユーザーを抱える Facebook を活用することで開発・運用コストを減少できた。このように多階層を連携させることで、見えにくかった農山村地域の日常的な魅力が可視化され、地域外に発信する機会が増加するとともに、地域外の人々から地域の情報に対するリアクションが得られることで、農山村地域住民にとっても、地域の魅力の再発見につながる。新規開発部分はメディアセンターエンジンと②広域連携プラットフォームである。メディアセンターエンジンは PHP によるスクリプトであり、広域連携プラットフォームはオープンソースの CMS である WordPress を改造することで構築したシステムである(図 2)。

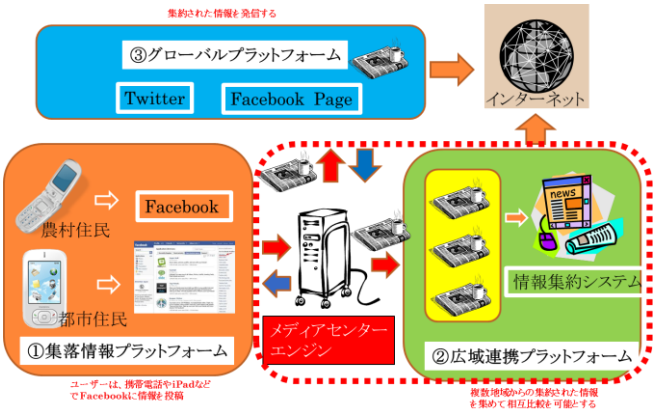

図１　農村ストーリー生成システムの構成

＊京都大学大学院農学研究科　Graduate School of Agriculture, Kyoto University　**京都大学大学院地球環境学堂 Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University　***（有）エクセリード・テクノロジー Excellead Technology　IT　農村振興　中山間地域

Ⅲ　システム開発上の留意点

開発したシステムは、平成25年よりURL（http://36.55.227.154/scope）にて一般公開している（ドメインは未設定）。図2左は自動生成される新聞の画面であり、図2右は、特に重要と判定された投稿記事のみを年表形式で「地域のストーリー」として俯瞰できる画面である。システム設計上の方針については、調査結果、Facebookとの関係性から検討した。

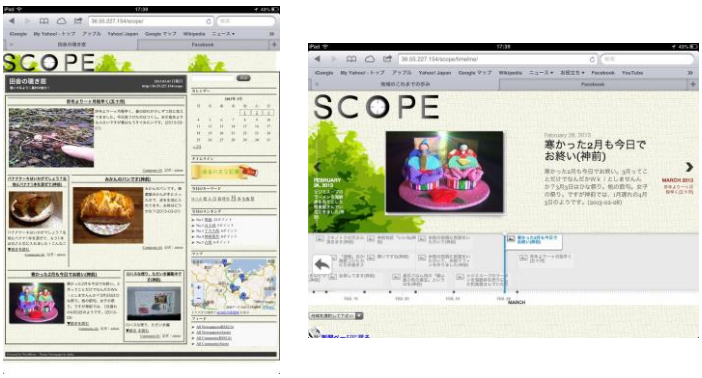

図2　農村ストーリー生成システムの画面

(1)対象地域における調査・分析結果から得られた知見にもとづく方針

昨年度実施したアンケート調査による対象地域におけるICT利用実態の分析結果や現地調査から得られた知見をもとに、機能を検討した。個人利用としては若年層の方がICT利用率も高く知識も豊富であるが、“地域のためのSNS活用”という目的においては、高齢者を積極的に利用者として考慮するべきであるという点が最も考慮した点である。上記を踏まえて特に留意した点は以下のとおりである。

① 新聞は、極力シンプルに1ページで完結するものとし、文字サイズを小さくし過ぎないようにする
② Facebookに登録しなくても、反響が多く地域に特有の投稿が集約されたニュースが閲覧できる
③ インターネットを使わない高齢者のために、新聞部分のみを紙面に印刷できるようにする
④ システムの情報とFacebookの元情報をリンクさせることで、Facebookに触れる機会を増加させる

(2)Facebook（その他のSNSも含む）の機能を補完する機能の方針

さらに本システムでは、Facebookに無い機能や使いにくい点を補完する機能を取り入れた。

① Facebookでは、蓄積される情報が増加した時に過去の情報を後から検索することが非常に困難で分かりにくいものであった。この点については、SCOPEプロジェクトの過程においても、住民から多数の指摘を受けた。本システムは、過去の特に重要な情報の検索性を飛躍的に高めるものとする。
② 農山村地域では、類似の課題を抱える他地域の情報を参考にする手段も乏しい。本システムにより、他地域の重要投稿を1画面で同時に把握でき、他地域と比較した地域の魅力の再発見や、外部からの魅力的な情報や取り組みを地域づくりの参考にすることを可能とする。
③ Facebookのタイムラインではそれぞれの地域の情報が時系列表示されるが、情報が増えてくると、後から全てを俯瞰するのは難しくなる。本システムでは外部閲覧者の評価等により選別された情報のみが年表形式で記録されていくことで、「地域のストーリー」を浮かび上がらせることができる。

Ⅳ　まとめと今後の課題

試験公開後に各対象地域の住民にサイトの感想を尋ねたところ、Facebookの過去の情報に対する検索性の悪さが解消されている点や、特に評価の高い魅力的な投稿のみが表示されるため、地域の良いところを改めて再発見できる点、地域外の良い取り組みなどを発見し刺激がえられる点など、好意的な感想を数多く得ることができた。2013年3月現在では対象とする地域が少ないため、今後地域を増やして運用していくとともに、別途実施したアンケート調査やユーザーの評価を踏まえて機能向上を図っていく。

謝辞　本研究は，総務省・戦略的情報通信研究開発制度(SCOPE)(112307007)の助成を受けたものである(平成 23-24 年度).